

医学教育学

担当指導医師

●本学

教授：田島 克巳、伊藤 智範

准教授：高田 亮

特任講師：相澤 純

学習方針：

PostCC OSCEに必要な知識・技能の再確認を行う。本学のカリキュラムについて今後のカリキュラム改変に役立つ発展的な意見交換を行う。これまでに学習した多職種連携を、実臨床の場で体験し、患者や他職種のメンバーとの良好なコミュニケーションを通じ、患者の抱える問題点を解決する。

教育成果（アウトカム）：1,2,3,4,5,6

患者の愁訴を基に、症候別に鑑別すべき疾患を抽出し、鑑別に必要な医療面接・身体診察を行い、臨床推論を行うことができる。卒業時コンピテンシーを修得するためのカリキュラムを考察できる。実臨床の場で、患者や他職種のメンバーとのコミュニケーションを通じ、良好な関係を築き、協働して患者の抱える問題点を解決することができる。

行動目標（SBOs）：

1. 症候について、鑑別に役立つ医療面接、診察手技についてまとめ、成果物に沿って鑑別すべき疾患をグループ化する。
2. 臨床実習で学修できなかった医行為を抽出し、修得に必要な資料を作成する。
3. 患者や他職種のメンバーと協調し、良好な関係性を築く。
4. 他職種と協働して、患者の抱える問題点の解決策を議論し、提案する。
5. 本学のカリキュラムが卒業時コンピテンシーの修得において十分なカリキュラムとなっているか考察し、改善策を提案する。
6. 患者さんの訴えに対し、適切な医療面接、診察手技を行い、指導医にプレゼンテーションする。

特に留意すべき注意事項：

作成・提出物については原則当日中にフィードバックを行う。それ以外に態度についても評価を行う。

事前学習時間：

医行為基準で経験していないものを抽出しておくこと。症候学のスライド、エクセル表を確認しておくこと。

スケジュール：

月～木：指定された作業を行う（8:50～16:00）。

金：作成物に関し、プレゼンを行い、評価を行う。

なお、多職種連携に関する実習は他学部の予定に合わせて行う。大まかな予定表はスケジュール表を参照のこと。

その他：

ヒポクラテスの時代から「後進育成」は医療人の責務であり、医師は医療チームにおけるリーダーとしての役目を負っている。近年、伝達技法は OSCE でも評価されるようになっており、また、多職種連携に関する技能は、将来的にも実社会ですぐ役に立つものである。

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用区分	使用機器・器具等の名称	個数	使用目的
実習用機械	タッチディスプレイ BIG PAD	1	プレゼン技法修得
実習用機械	バーチャルスライドシステム	1	e-learning 教材作製
実習用機械	Body Interact (シミュレーションソフト)	1	医療シミュレーション教育

成績評価方法：

提出物 40 点、プレゼンテーション 30 点、態度 30 点で総括評価を行う。

高次臨床実習スケジュール [医学教育学] 多職種連携実習

指導医師名：①伊藤智範教授 ②田島克巳教授 ③高田亮准教授 ④相澤純特任講師

曜	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限
月	8：50 オリエンテーション [医学教育学講座] (指導医) ①②③④	シミュレーション実習 [マルチメディア研究棟] ①②③④	病棟実習 [矢巾 附属病院] ①②③④	病棟実習 [矢巾 附属病院] ①②③④
火	病棟実習 [矢巾 附属病院] (指導医) ①②③④	病棟実習 [矢巾 附属病院] ①②③④	症例まとめ ディスカッション [医学教育学講座] ①②③④	症例まとめ ディスカッション [医学教育学講座] ①②③④
水	シミュレーション実習 [マルチメディア研究棟] (指導医) ①②③④	シミュレーション実習 [マルチメディア研究棟] ①②③④	多職種ディスカッション [矢巾 附属病院] ①②③④	多職種ディスカッション [矢巾 附属病院] ①②③④
木	病棟実習 [矢巾 附属病院] (指導医) ①②③④	病棟実習 [矢巾 附属病院] ①②③④	多職種ディスカッション [矢巾 附属病院] ①②③④	多職種ディスカッション [矢巾 附属病院] ①②③④
金	症例まとめ ディスカッション [医学教育学講座] (指導医) ①②③④	症例まとめ ディスカッション [医学教育学講座] ①②③④	フィードバック [医学教育学講座] ①②③④	まとめ [医学教育学講座] ①②③④